

さて、センターの取り壊しは何年先にはじまる？

5～10年先の間であろうと考えるのが普通かなと思いますが

「あいりん総合センター」、耐震補強でなく移転が経済的と・・・

大阪市の西成区構想プロジェクトチーム会議が、大地震がおきたら崩壊間違いなしと折り紙付きの「あいりん総合センター」について、「移転」が適当であるという方針を決めたようです(裏面参照して下さい)。

では、いつ頃、今のセンターの解体工事が始まるのでしょうか？

先ず移転するにしても、新しく建てる建物の設計図を書く必要があります。どの様な機能を持たせる建物にするのかが決まらなければ、設計図はかけません。また、必要な資金の負担割合(市・府・国等||民間参入の可能性も含む)が決まりません。

センターの機能の見直しについては、大阪府市は今年度中に結論をだすといっていたと思います。それに基づいて、資金負担割合の調整がはじまります。これが1年で片付くとすれば、最短で再来年、2014年度には、移転先で工事が始められることとなります。堅く考えれば、2015年度からです。

では、移転先はどこになるのでしょうか。昔から「南港移転」が根強いわれていますが、今進行中の「あいり

ん構造改革計画」のからみからいえば、それに必要な機能も新しいセンターに盛り込まれることでしょうか。ら、あいりん地域外である可能性は低いと思われる。では、地域内のどこか。萩之茶屋小学校が廃校とな

るのが、タイミングよく2015年4月です。センター敷地の跡地利用と絡めれば、「地元」合意は容易であると思われれます。近くでは、三徳寮の東側、北シエルトア・特掃詰所の敷地もかなりの広さです。三徳寮敷地も含めれば、相当なものです。少し離れて南に下れば、元の職安跡地も考えられます。大穴としてあげれば、三角公園もないわけではないかと・・・。

2015年から新しい「センター」の工事が始まるとして、完成まで2年(?)とすると、今のセンターの解体工事が始まるのは、2017年ということになります。これが、多分、最短予測です。

何の権限も根拠もなく、競輪競馬の予想よりもお気軽な予想ですが、大きな流れとしては外れていないと思います。その時、あるいはそれにいたる過程で、釜ヶ崎は変わる。今からよく思索して、先の見通しを！

あいりん総合センター(大阪社会医療センター・市営萩之茶屋住宅)について

1 現状

- あいりん総合センターは国及び大阪府の労働支援施設と、大阪市関連の医療施設、市営住宅が合築された建物。
- 現行の耐震基準が施行される前(昭和45年)に建設され、耐震性が低く、老朽化も進行しており、施設のあり方について検討が必要となっている。

2 検討案

①耐震改修

新たな建設用地が不要であるが、補強工事により、医療施設の仮移転及び閉鎖する住戸の移転先住宅が必要となり、建物の耐用年数を考慮すると費用対効果は低い。

②移転

移転先用地の確保が必要であるが、医療施設及び市営住宅の仮移転が不要であり、耐震改修する場合に比べて費用対効果が高い。

③現地建替

新たな建設用地が不要であるが、医療施設、市営住宅及び労働支援施設の仮移転が必要であり、事業費が大きく工期も長い。

3 大阪市における検討経過

西成特区構想プロジェクトチームに分科会(西成区、福祉局、都市整備局、計画調整局、市民局)を設置し、特別顧問の参画も得て検討してきた。

4 検討結果

- 上記3案のうち②移転案が、最も適切であるとの結論。

5 今後の進め方

- あいりん総合センターの労働支援施設を所管する国および府と協議を進める。

(上の資料によると、現在のセンターは大地震で崩壊する可能性が高いので取り壊し、必要な「機能」について検討した上で、どこかに建て替える方針が大阪市内では固まったということ。国や大阪府の考え方は、今のところ不明。建て替え地の候補としては、廃校となる3小学校の跡地(本命は萩之茶屋小学校、旧南職安跡地、三徳寮・夜間宿所・特掃詰所の敷地、旧保健所跡地などが予想される。)